

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 28 年度 第 3 回 相模原市総合計画審議会				
事務局 (担当課)		企画政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 0 3 (直通)				
開催日時		平成 28 年 9 月 23 日 (金) 18 時 00 分 ~ 19 時 20 分				
開催場所		相模原市役所 本庁舎本館 2 階 第 1 特別会議室				
出席者	委員	9 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	6 人 (企画政策課長 他 5 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	なし
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		開会 1 議事 (1) 総合計画進行管理 2 次評価の結果について (2) 施策の実施状況に関する建議書 (案) について (3) その他 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり

(委員の発言、 会長の発言、 事務局の発言)

開会 椎橋企画政策課長

1 議事

吉田会長の進行により議事に入った。

(1) 総合計画進行管理 2 次評価の結果について

本日の議事(1)「総合計画進行管理 2 次評価の結果について」事務局から説明願いたい。

事務局より資料の説明が行われた。

総合評価の 2 次評価の結果について、昨年より A 評価の割合が高くなっているが、実際は 1 次評価と一緒である。

総合戦略の 2 次評価の方法について、今年度の内容程度であれば、審議会で評価検証する必要性に疑問がある。市の政策の運営、行政活動の改善で役立つように、事業の位置付け、問題や課題、留意点を指摘できるよう、評価資料の改善を求める。

私も同意見である。評価が実施しにくかったことを指摘した。

来年度の実施時には改善を行っていくよう、検討していく。

(2) 施策の実施状況に関する建議書 (案) について

本日の議事 (2) 「 施策の実施状況に関する建議書 (案) について 」 事務局から説明願いたい。

事務局より資料の説明が行われた。

部会で指摘した点など、記載漏れや記載不備について、気付いた点をご意見いただきたい。その点を含めて、最終的な建議書にまとめていきたいと思う。

第 2 部会でヒアリングした内容について、修正してもらいたい点が 3 点ある。

1 点目、20 ページの「 施策 37 魅力ある観光の振興 」について、アンテナショップの成功がこれほど特出しであったか疑問である。また、「 組織的にどうするのか 」とはどういう意味か。

冒頭、観光協会の組織について予算、取組内容について議論があった。組織的にどのように改善していくべきかとの議論であった。具体的には、どういった人材を採用していった方が良いか、どのような人財を発掘して、事業を推進していくべきか。ということであった。

後段では、アンテナショップの sagamix の売上が伸びている件について、今後の観光振興に、このアンテナショップの売上増加を次の事業展開にどのようにつなげていくか。というものであった。

アンテナショップが sagamix ということで、記載しても良いかと思う。

観光協会の組織的な改善について、30 代と 40 代の職員がいて、頑張っている。また、こんな人材が事業の推進には良いのではないか。ということであれば、例を挙げてその旨を記載してもらいたい。

最近、政府が DMO という、観光振興について、観光資源を生かして、観光ネットワークを広域的に組織化することを推進しているが、そのような議論はあったのか。その点を記載する必要は無いのか。

そこまでの議論はヒアリング時にはなかった。

小田急電鉄が沿線の商工会議所を集めて観光を推進して、利用客をつなぎとめようとする中で、広域協議会を設立したが、相模原市は構成員ではないのか。

実態は承知していないが、そのようなことを聞いたことがある。

その後の確認結果。協議会の構成員は以下の通りであり、本市の商工会議所は構成員であった。

構成員：東京商工会議所新宿支部、川崎商工会議所、小田原箱根商工会議所、藤沢商工会議所、秦野商工会議所、厚木商工会議所、相模原商工会議所、町田商工会議所、大和商工会議所、多摩商工会議所、海老名商工会議所と小田急電鉄株式会社。

小田急のような動向があるのであれば、観光協会だけの改善で良いか疑問が残る。

この議論の際に、観光協会の改善について、本市職員のOBがいるが、観光業界のプロというべきか、経験者の採用がないと改善は難しいとの話があったもの。議論の内容が通じるよう、記載内容を修正する。

沿線の観光資源をネットワーク化し、地域の製品のブランド化を図るという動向がある中で、観光協会の外郭的な事業運営からの改善が必要であるだろう。

議事録案を読むと「これまでの町おこし」とある“これまで”の部分はもっと地方の話であった。sagamix のことではないので、sagamix の記載は無いほうが良いのではないかと。

町おこしの成功例と関連付けたものとして記載するのであれば、sagamix は記載せず、sagamix の売上増加を観光振興につなげることとして記載してもらいたい。

2点目、22 ページの「施策45 安全で快適な住環境の形成」について、住宅耐震化を進めるための税務部門との庁内連携についての意見があった。その旨を記載してもらいたい。また、市民周知についても具体的な議論があった、直接DMを発送するなどの検討事項があったと記憶している。その旨を記載してもらいたい。

3点目、28 ページの「施策33 地域経済を支える産業基盤の確立」について、「意欲ある若者を引き付けられる技術力のある」とあるが、技術力だけでなく、格好良い会社、ユニークな会社、働き甲斐のある会社という意味合いで

発言したものを。記載内容を修正してもらいたい。

発言した内容が記載されており、うれしく思う。

全体的に良くまとめられていると思う。もう少し、具体例の記載があると理解が進む。この文章だけでは、自分が出席した部会の内容は理解できるが、参加していない部会の内容は分からない。一般の市民はもっと分からないのではないか。

21 ページの「施策 40 新たな産業拠点の形成と地域拠点の活性化」について、新たな産業拠点の整備の際に、文化財保護の問題があるので、関係者と協議していただきたいと発言した。後段で、環境への負荷については地権者のみでなく、温暖化対策の話になるので、政策間の調整を図る必要があり、齟齬がないようにした方が良いとの指摘であった。

文章を分割して、修正させていただく。

産業連携の形成について、一定の都市圏形成を念頭に、広域的に地域戦略会議などの会議体を設けて、単一自治体ではなく、複数の自治体とし、大学、民間事業者や団体も含めて地域経済の振興、都市圏形成について議論を進めるなど、従来型の縦割りから脱却して地域振興を進める動きがあるが、どうなのか。

今回は1次評価がA評価であり、事業の推進もされていたので、そこまでの議論にはならなかった。観光や農業と横の連携をしながら事業推進をしてもらいたいと考えていた。八王子市や町田市とも連携してもらいたいと思う。

所管課と話をする機会があった。高尾山にたくさんの観光客が来ているのに、相模原市側には全く下りてこない。道がなく、バス路線もない。高尾山は東京都でそこでお終いとなっている。高尾山や陣馬山までは日本一と言ってよい程の登山客が来ているのに、藤野には少し下りてきているが相模湖までは下りてこない。もう少し、東京都や八王子市と連携してもらいたいと思った。

施策 37 にこの指摘を追加してもらいたい。

いずれにしても、修正した内容を各委員に一度確認してもらうことになると思う。その時点で修正があれば、また、再度修正する。

ヒアリングで気になっていたのが、「施策1 地域福祉の推進」で、施策3と矛盾した内容になってしまうかもしれないが、コミュニティソーシャルワーカーの導入に際して、国の補助金の話があった。導入時は補助金があるが、補助金がなくなった際の事業の継続について議論があった時に、所管課の考え方がはっきりしていなかったように感じた。補助金がなくなっても、相模原市独自の判断で、継続していくという強い意識があるのかどうか。補助金を活用することは大事だが、補助金なくなったときにどうするか、市の主体性と財政に配慮した先の見通しも組み込んで、新規事業を導入する必要があることが話題になったと思う。

今の委員の意見について、福祉の各事業の国・県・市の負担割合を過去数年間の実績についてデータの提供を求めた。結果として、補助金にしても交付金にしても最初の数年間は国・県の負担があるが、途中から全て廃止もしくは交付税措置となり縮小されて市の負担が増大している。

14 ページ、「施策3 子どもを生きやすい環境の整備」で施策推進に対する意見の3つ目で指摘したものと、10 ページの で記載するようにした。補助金がストップされたり交付税措置された時に見直すべきであると指摘した。交付税は一般財源となり、特定財源でなく目的が決まっているわけではないため、本当に全額が市に財源として振り分けられているか疑問の点が多いもの。そのような指摘では不十分であるか。

若干指摘の角度が違っているのかもしれない。補助金がカットされても、無自覚に事業を続けていくことの問題が指摘されているが、補助金が出たから事業を実施し、補助金がカットされれば事業をやめるのは、市として施策に対する自立した考え方がないと言えるのではないかと、その点が「施策3」のヒアリングの時に浮かび上がったように思った。補助金があるから実施するという発想に捉われているのではないか。国のメニューにあるから事業を実施するのではなく、相模原市に必要な事業は何かを考えて、推進してもらいたい。

10 ページの 2 段落目の2行目に「施策を推進することは評価できるが」とあるが、この後に補助金など今、委員が発言された内容を挿入して、「反面」ではなく、「また、」にして文章を修正する形でいかがか。

第1部会は福祉や人権問題など、難しい施策が多かった。個人的には発言しやすいテーマではあった。このように文章化されると出席した第1部会は理解できるが、第2部会は分野も異なり、分からないこともある。しかし、文章が

さっぱりして分かりやすく感じる。

指摘する側が理解していることも大事であるが、指摘を受ける側にとっても分かりやすい表現である必要があると思う。

市議会でもこの資料が利用され、この指摘事項に沿って、議員が質問するようである。その点で各所管課においてはここでの指摘事項には一定の重みのある内容となる。

22 ページの「施策46 基地の早期返還の実現」の改善すべき点において、基地に関する情報が限られているということもあったが、出しているのに認知されていないということもあったと記憶している。若干ニュアンスが違うように感じる。

情報提供の一部になるのかもしれないが、情報を発信しているのに市民が知らないという意味であった。記載内容の修正をお願いしたい。

10 ページから 11 ページにかけて縦割り行政からの脱却とある。私自身が初めてこの審議会に携わらせていただき、施策の推進には横断的な連携や横断的な共有による施策の立案と実施が大事であると感じ、ここに記載されている内容そのものであると思った。ただ、この記載内容がやや理念的になっているように感じた。子どもの施策で言えば、健康福祉局と教育局の連携が必須であると感じた。最後の文章に「局間連携、局区間連携を強める仕組みの導入」とあるが、具体的には局長会議など現行ある会議で連携の推進などを強める方法があるのか。または、担当者の実務者会議などの活用などができるものなのか。

記載内容としては、下から3行目の「共通の目標・指標の設定、部局間の組織ネットワークづくり、事業の共同立案・実施など」としている。他にも事業関連マップの作成などもあろうかと思う。

会長は以前から発言されているが、現在はどの程度進んでいるのか。その点に関するモニタリングはこの審議会でも実施していない。例えば、共通の事業の立案など検討状況はいかがか。そのようなものが増えてきているものなのか。

事業を共同で提案したり、一つの課題の解決に向けて「連絡調整会議」のような体制を作って取り組んでいるものはある。最近は子どもの分野に関しては局部間をまたがる事案が多いため、教育委員会との連携が増えてきているように

感じる。共通の指標・目標についてはなかなか進んでいない。事務局や企画の立場として、この指摘内容について庁内に対して促していく必要があると感じている。

共通の指標・目標設定は大変難しい問題である。業務分析を前提に考えていかないといけない。アメリカのオレゴン州で実施しているが、日本の自治体では仕事の仕方が違うので難しいと感じる。アメリカの場合には個々人で仕事の目標等が明確になっているが、日本の場合には課単位など組織で仕事を実施している。いずれにしてもその辺を打破していく必要がある。

生涯スポーツでは横断的な取組を記載していたが、健康分野では意識の違いもあるかと思うが記載が無かった。

パラリンピックに代表される障害者スポーツがどこに区切りがあるのか、または区切りを取り払って実施していくものではないかとの問題意識もあるので、ご指摘の内容を踏まえて対応していきたいと考えている。

26 ページの「施策 2 2 人権尊重・男女共同参画の推進」において、所管課として企業の中での女性の活躍についてアプローチしているとの話であった。この記載には「企業の男女共同参画」とある。これでは趣旨が伝わらないと感じる。企業の中での女性差別の問題の克服ということであり、働く場での不平等の解消が意識されているように感じた。

「女性活躍推進法に基づいて、企業における男女差別の是正をはじめ」とすることで良いのではないか。

給料や昇進の差別があって、自治体内の取組では審議会の女性の割合などのチェック項目があるが、企業ではなかなか難しいところがある。どのようにアプローチしていくのか、これからの取組であると思うが、働く女性たちが意識できるような研修を実施しようとしていることは意欲的だと感じた。

雇用の場での男女差別に自治体としてどう意識改革に取り組むか。その点に関しては前進させているので評価できる。

改善工程表モニタリングの結果及び評価に関して、何年か前の進行管理の評価や改善工程表でモニタリングを実施した内容から進歩がみられない施策があった。ここ最近の景気の改善による雇用回復や外国が絡む基地の問題など、

直接、相模原市の努力が反映されないものである。今年に限った話ではないが、継続してヒアリングをしていると感じるところである。市としてコントロールしにくいもので、結果が出ていないものは、新しいアイデアがなかったように感じた。予算がない中でも色々と打つ手があるのではないか。新しいアイデアや工夫を実施してもらいたい。

11 ページの で指摘している内容では抽象的ではあるが記載している。

27 ページなどの各施策の項目で具体的なアイデアや工夫の取組を検討することを指摘することで良いのではないか。

「はじめに」は素晴らしい文章である。2 段落目の終わりの方で「真摯な継続的改善努力を積み重ねてきた結果といえ、大いに評価したい」とある。ここが感動した。今まではここまでの記載は無かった。凄いことが書かれていると思う。この文章でこの建議書に対して好感が持てるようになった。このような前向きな良い言葉がちりばめられていることは良いことである。

各委員から指摘のあった点を踏まえ、事務局で修正をし、その結果を各委員に送付する。その際には私が一度確認したものとする。取りまとめについては、会長と事務局に一任していただいでよいか。

異議なし。

(3) その他

議事(3)「その他」について事務局から説明願いたい。

今後のスケジュールについて、ご説明させていただく。

会長からも話があったが、この建議書案については、今日のご意見やご指摘を踏まえ、修正したものを送付させていただく。

会長から市長へ建議書をお渡しいただくまでの間に必要な修正や事務手続きを進めていきたいと考えている。

次回の第4回総合計画審議会は、来年2月頃を予定している。議題は、建議書の提出を受けて、市の対応方針を作成するので、この対応方針の報告を行う予定である。

なお、委員の委嘱期間は来年の平成29年の6月で満了となる。学識の委員におかれては、今後のご意向など事務局から確認させてもらいたい。次の任期の公募を実施するうえで、先生方のゼミ等の教え子など適任者がいるかなどのご協力をいただきたい。

公募の委員の方に次の公募に向けて、総合計画審議会の公募委員となった報告として、広報などで取り組まれた内容について感想などを掲載していただくことはいかがか。この委員になるまでは相模原市がどのようなことに取り組んでいるのか分からなかったと思う。他の市民も一緒であると思う。多くの市民が関心を持っていただいた方がよい。相模原市の政策の推進が着実に進むように感じる。

会長の趣旨で、次の方のために審議会で取り組んだ内容を掲載することは良いことであり、可能かと思う。掲載のタイミングや分量については、皆様のご意向も踏まえ、事務局で検討させてもらいたい。

大学に勤めていたころは、学生に対して、審議会等の公募は勉強になるし良いものと勧めていた。

他に意見等がないようなので、本日の議事は終了とする。

閉会 椎橋企画政策課長

以 上

相模原市総合計画審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	荒井 容子	法政大学社会学部社会学科教授		出席
2	岡本 真佐子	青山学院大学地球社会共生学部 地球社会共生学科教授		出席
3	金森 剛	相模女子大学人間社会学部 社会マネジメント学科教授	副会長	出席
4	佐藤 慶一	公募		欠席
5	長野 基	首都大学東京都市環境学部建築都 市コース・大学院都市環境科学研 究科都市システム科学域准教授		出席
6	林 恵子	公募		出席
7	宮 久美子	公募		出席
8	三好 上次	公募		出席
9	横川 剛毅	和泉短期大学児童福祉学科准教授		出席
10	吉田 民雄	総合政策プランナー	会 長	出席